

病院のお仕事いろいろ

患者さんに 寄り添う支援を



医療技術部
リハビリテーション部門
視能訓練士

伊月 あゆみ
(いづき あゆみ)

人が外界から得る情報の80%が目から入ってくると言われています。目でものを見る働き(視機能)に障害があると日常生活・社会活動に困難が生じます。視能訓練士は、視機能をサポートするスペシャリストです。業務は主に眼科一般の視機能検査(視力、眼圧、視野検査など)、眼科専門分野(弱視、斜視など)の訓練指導、ロービジョン(先天異常、疾患や事故によって視機能が低下した状態)の患者さんへの補助具選定やリハビリ指導を行うことで、眼科を受診する患者さんが必ず接する職種です。また、集団検診での視機能スクリーニングにも携わります。

視能訓練士が行う眼科での検査は患者さんの協力なしでは成り立たない検査がほとんどで、より正確な検査結果を出すためにも分かりやすい検査説明や患者さんの集中を切らさないよう迅速な対応と声かけが大切です。さらに同じ疾患でも病気の程度により見え方に差があり、患者さん一人一人に合わせた対応も必要となってきます。また、大学病院という場所柄、重い症状の患者さんや、眼科以外で重い疾患を抱えた患者さんも多く、そのような患者さんの中には、「見えない」という固定観念などの心理的な要因が

ら、実際の目の状態以上に見えにくいといった心因性視力障害の方がいるなど、大学病院特有の難しさもあります。

伊月さんは、医療職の中で女性が働き易いということで視能訓練士を目指したそうですが、視力矯正の眼鏡作製などのサポートにおいて、患者さんの年齢や性格によって異なる様々なニーズを汲み取り、患者さんから見えやすくなったと喜ばれた時はやりがいを感じ、「この道に進んで良かったと思います。」と語ってくださいました。

また、業務を行う上で「患者さんの目線に立って考える」ということを大切にしています。「患者さんやご家族が治療や訓練をどのように考えているのかを探っていくことが診療に必要不可欠です。そのため話しやすい環境を作っておくことや相手の話に耳を傾ける姿勢を大切にしています。」とのことでした。

今後の目標については、「特に斜視や弱視の分野の知識と経験を深め、より多くの患者さんの役に立ちたいと思います。」とお話してくれました。